

2017 a year of gratitude
— 2017 年は感謝の年 —



クリスティー・マツカワ
Christie Matsukawa
アメリカ出身

こんにちは！
外国語指導
助手です。



新年もひと月が過ぎ、もうすぐLOVE(愛)の季節、バレンタイン・デーがやって来ますね。「愛」という言葉は、日本では恋人たちや夫婦の間で使われることが多いですが、英語でLOVEは恋人や夫婦の間はもちろん、家族や友人など大切な人にも使います。

今年の私の抱負は、私が大好きな人に、ちゃんと愛を伝えること。つまり、2017年の私のテーマは、「感謝」です。私が一番愛し、感謝している人は、両親です。

私の母は、20歳の時にアメリカに渡りました。大学に行って英語を学び、大学を卒業後、アメリカに残ることを決め、10年後に私の父と出会いました。私の父は、アメリカで日本人の両親に育てられました。二人はお互い30代の時に出会い、ほどなく結婚して私が産まれました。

母は、私の憧れの人です。強くても何もあきらめずにやり遂げることができる人です。父は、おもしろくて優しい人です。どちらかという、私は父に似ています。両親は意見を押し付けることは決してなく、いつも私の意見を尊重してくれます。そして、私が帰るところである“HOME”をいつも用意してくれていることに、感謝しています。そして、私はただただ両親を愛しています。

皆さんは誰にLOVEを感じていますか？この季節、ぜひそれを言葉や態度で表してみてください。



図書館の
おすすめ

BOOK
本



市立図書館
☎ 0956-72-4677



松浦市ホームページで
「松浦市立図書館」を検索
土日、祝日も開館しています。(年末年始、臨時休館を除く)



『はじめて茶会に招かれました。客の作法がわかるイラストガイド』

淡交社編集部/編 田淵正敏/イラスト 淡交社

古くから続く日本が誇る文化、茶道。千利休が確立したことは多くの方が知ることですが、いざ茶会となると…。そんなお茶会初心者の方へ、必要な持ち物や進み方など茶会を楽しむための心構えを分かりやすいイラストで紹介した入門書です。



『大坂城 絵で見る日本の城づくり』

青山邦彦/作 講談社

豊臣秀吉が築城した大坂城を少ない道具を使い、人の手で作り出していく様子が細やかに描かれた絵本です。建築を学んだ著者の真骨頂とも言える一冊。ページごとに隠れた忍者を探しながら巨大な建築が出来上がる様子をお楽しみください！

蔵書の総点検のため休館します

松浦市立図書館は、蔵書点検のため下記の期間休館いたします。

2月23日(木)～3月6日(月) ※この期間は、開館中ではできない以下の作業を行います。

(1) 資料の有無を確認します

…本だけでなく、ビデオ、DVD、CDなど図書館にあるすべての資料を1点ずつ確認し、行方不明の資料がないかを調べます(今回は約11万7千点を調査)。

(2) 資料があるべき場所にあるかを確認します

…図書館の資料は、置かれている場所が決まっています。あるべき場所になければ利用が困難になるので、とても重要な作業です。

休館中の返却は、生涯学習センター入口横の返却ポスト、または最寄りの市立公民館にお願いします。

長期の休館となるためご迷惑をおかけしますが、ご協力をお願いいたします。

* 休館日は、お電話かホームページでご確認ください。また、館内で図書館カレンダーを配布しています。



福岡からの熱い視線 今年もヒートアップ!の予感

天神書簡—福岡事務所便り—



ばぁ～ばのキッチン特製「棚田弁当」!



つばき荘でモーニング健康セミナー開催!



元寇をテーマに福岡と松浦のガイドが交流!

福岡事務所は、「観光のオフシーズン」ともいえる冬こそチャンス!と発想を切り替え、現在、多くの交流人口を生むさまざまな取り組みに邁進中です。

まず、11月26～27日、12月17日にはラジオ(コミてん・ラブエフエム)とタッグを組んだメディアツアーを実施。ちりめん加工工場見学、オール地元食材を使ったばぁ～ば特製棚田弁当、西日本唯一の汐湯のかけ流し「福島温泉つばき荘」の新しいトライアル～終活セミナー・モーニングセミナーに加え、鷹島「海の市」「本マグロ解体ショー」など、松浦市民のみなさんが力を合わせて誕生したイベントに、メディアタイアップ企画

を組み込むことで、新しい松浦の魅力を再発見!同じく12月11日には、元寇史跡の案内を軸に、福岡市観光案内ボランティア50名と、鷹島歴史ボランティアガイドとの歴史交流が実現しました。

食・歴史・体験…点だったコンテンツを面に統合し、懐かしくて新しい海と島のまち・松浦へと進化中です。

お問合せ

松浦市福岡事務所
☎ 092-406-2180
✉ matsuura.f@city.matsuura.lg.jp



わたしたちの郷土

130
巻



中世の松浦(95) 鷹島海底遺跡

↳平成28年度鷹島海底遺跡調査開始

鷹島海底遺跡をはじめ、国史跡鷹島神崎遺跡からは元軍の沈没船が2隻発見されています。これらの沈没船は海底にあることから容易に位置を特定することができます。しかしながら、琉球大学の池田榮史教授を研究代表者とする研究チームは、約10年の研究成果を基に、鷹島海域で有効な調査方法を確立しました。その手法は次のとおりです。

- ① マルチビームと呼ばれる音波を用いた海底の地形図の作成
- ② 音波探査による海底の堆積物の調査
- ③ 音波探査によって特徴的な反応のあった海底の突き棒調査
- ④ 突き棒調査によって木材の反応があった箇所の確認調査
- ⑤ 確認調査地点の本調査

このような、調査方法の確立により、鷹島南岸海域において精度の高い調査が可能となりました。

本年度は、2月1日から約1カ月間、史跡内での突き棒調査と鷹島の南岸海域で音波探査を実施します。特に、突き棒調査は昨年度行った音波探査により確認されている史跡内の6カ所7ポイントの異常反応体で実施します。調査は、約2kgの金属製の棒を10cm×10cmの範囲において等間隔(1cmピッチ)に海底に突き刺し、棒をとおして伝わる感触から、木材や石材など海底下に何があるのかを確認します。本年度の調査対象は、これまで元寇船が確認された反応とは異なっており、陶器や木材などの断片化した元寇遺物の集合体の可能性があり、調査の成果が期待されます。



▲ 突き棒調査風景